

令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

学校法人 中国学園

1 基本的姿勢

中国学園は岡山地域の中核的な教育機関として歴史を積み重ね、これまでに約3万人もの優秀な人材を社会に送り出して来た。その間、幾多の教育改革を施行し、他大学と遜色のない高等教育機関として教育・研究に係る質・量の充実を図って来た。今後においても岡山地域における高等教育機関として、質の高い教育・研究を推し進めるとともに地域社会に有為な人材を輩出することを揺るぎない基本的姿勢とする。これらを実現するため、安定した入学者確保に基づく財政的裏付けを社会に示しつつ、地域社会からの信用獲得と学生をはじめとする全てのステークホルダーの満足度を高めることを第一とした学園運営を行う。

2 運営方針

少子化の影響を一因とする入学者数の減少により、現在の中国学園をこれまでと変わりなく存続させることは非常に厳しい状況にある。中長期的な展望を有しつつも、迅速な意思決定と臨機応変な対応を含む改革が必須といえる。エビデンスに基づく現状把握、分析と判断、行動計画の策定、迅速な実施により地域社会に求められる学園改革に邁進することを本年度の運営方針とする。

3 教育面の改革方針

教育の質的向上を目指す不断の改革は、有為な人材育成を行う上での根幹といえる。同時に、質の高い教育は学生確保の重要な要素でもあり、高校・高校生・保護者が大学を選択する際の大きな指針ともなる。大学で何を学び、その学びを卒業後にどのような形で社会に活かすのか、全入時代にある大学には明確な説明が求められている。教育課程（カリキュラム）の不断の改革はもとより、例えば資格取得を目的とする学部等の場合は、資格取得者数や取q得率に加えて、その資格を生かした就職状況等の結果のエビデンスが重要となることはいうまでもない。教職員一人ひとりが持ち得る英知を教育力の向上に注ぎ込む決意を求め、教育課程の見直し、資格取得や就職等の学びを成果に結びつける取り組みを実施する。加えて広義の教育課程（授業に加えて授業以外の教育活動全般を含む）についても改革を進め、学生生活の満足度を高めるための取り組みを行う。

4 研究面の改革方針

研究を通じた社会貢献は、大学に求められる重要な使命である。研究力向上を目指すうえで中心となる大学院として、本学には二つの研究科が設置されている。現代生活学研究科は、医療や教育現場等で活躍出来る食と健康のスペシャリストの養成を、子ども学研究科は、広い視野で問題を解決し子どもの成長・発達を支援する専門性を持った人材育成を目指している。これらの研究科が目指す高度職業人育成を達成するためには、適切な研究テーマの設定に加えて文部科学省の科学研究費および各財団等の研究助成金等、様々な外部資金へのアプローチを含めた研究活動が不可欠である。研究者個々人のテーマに加えて大学全体として共通の研究テーマを設定し、学園全体としての研究力を向上させる取り組みを強力に推し進める。さらに、研究面での成果を社会に還元するための広報活動を充実させる。

5 入試および入試広報の改革方針

中国学園全体として、入学者が前年を大きく上回ることを最重要目標とする。目標達成のため、教育と研究に裏打ちされた大学の魅力を明確化して効果的に発信する。また、入試制度については歩みを止めることなく絶えず改革を行う必要があり、これまでの入試に関する分析とともに、近隣地域のみならず中四国地域や全国の動向を踏まえつつ改革に取り組む。併せて入試広報については、オープンキャンパス、高校訪問、高大連携等における魅力ある広報を入学者獲得の有効な手段として位置づけ、立案から実施までについて重点的に取り組む。

1. 学校法人の概要

(1) 教学の理念

「自律創世」

成人として自律し、自分の人生は自らが創ることにより社会の発展に寄与しうる人材を育成することを目指す。

(2) 沿革

1953 (昭和 28) 年	学校法人平田洋裁学園設立認可、平田洋裁学園設置 (岡山市船頭町 12 番地)
1962 (昭和 37) 年	学校法人平田洋裁学園を学校法人平田学園に改称 中国女子短期大学設置 (岡山市船頭町 12 番地) 家政科設置
1963 (昭和 38) 年	家政科第二部増設
1964 (昭和 39) 年	保育科増設
1965 (昭和 40) 年	中国女子短期大学を都窪郡吉備町 (現岡山市) 庭瀬 83 番地に移転 中国女子短期大学を中国短期大学に改称 英文科 音楽科 増設
1966 (昭和 41) 年	平田洋裁学園を平田デザインスクールに改称
1968 (昭和 43) 年	専攻科 音楽専攻設置
1977 (昭和 52) 年	平田デザインスクールを学校法人平田学園から分離 学校法人事務所を岡山市庭瀬 83 番地に移転
1988 (昭和 63) 年	幼児教育専攻科 英語英文専攻科 増設
1989 (平成元) 年	学校法人平田学園を学校法人中国短期大学に改称
1990 (平成 02) 年	家政科廃止認可
1992 (平成 04) 年	経営情報学科増設
1995 (平成 07) 年	専攻科音楽専攻 学位授与機構認定
1999 (平成 11) 年	人間栄養学科設置
2001 (平成 13) 年	学校法人中国短期大学を学校法人中国学園に改称
2002 (平成 14) 年	中国学園大学開学 現代生活学部人間栄養学科
2003 (平成 15) 年	中国短期大学人間栄養学科 募集停止に伴い学科廃止 専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止に伴い廃止
2006 (平成 18) 年	中国学園大学大学院開設 現代生活学研究科人間栄養学専攻 子ども学部子ども学科開設
2008 (平成 20) 年	専攻科 幼児教育専攻 廃止
2010 (平成 22) 年	中国学園大学大学院設置認可 子ども学研究科子ども学専攻 音楽科募集停止届出 中国短期大学平成 21 年度第三者評価、適格と認められる (短期大学基準協会)
2011 (平成 23) 年	中国学園大学大学院開設 子ども学研究科子ども学専攻 中国学園大学平成 22 年度第三者評価、適格と認められる (日本高等教育評価機構)
2012 (平成 24) 年	音楽科廃止
2013 (平成 25) 年	専攻科音楽専攻廃止 英語コミュニケーション学科募集停止届出
2014 (平成 26) 年	国際教養学部国際教養学科設置認可
2015 (平成 27) 年	国際教養学部国際教養学科開設 中国短期大学平成 27 年度第三者評価、適格と認められる (短期大学基準協会) 英語コミュニケーション学科廃止

2016（平成 28）年	中国学園大学平成 28 年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）
2019（平成 31）年	幼保連携型認定こども園 中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園開園（岡山市北区中撫川 351 番地）
2020（令和 2）年	専攻科介護福祉専攻廃止
2021（令和 3）年	総合生活学科（生活福祉コース）で介護福祉士学校の指定
2022（令和 4）年	創立 60 周年
2023（令和 5）年	中国短期大学令和 4 年度第三者評価、適格と認められる（大学・短期大学基準協会）
2024（令和 6）年	中国学園大学令和 5 年度第三者評価大学機関別認証評価、適合と認められる（日本高等教育評価機構）

（３）設置学校等

学校法人中国学園	理事長：中 島 義 雄
中国学園大学	所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：加 賀 勝
中国短期大学	所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：加 賀 勝
中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園	所在地：岡山市北区中撫川 351 番地 園 長：河 原 智 美（R6.12.31 まで） 住 野 好 久（R7.1.1 から）

（４） 役員及び教職員に関する情報

（令和 6 年 5 月 1 日現在）

					大 学	短期大学	小計	こども園
役 員	理 事	6 名	教 員	常 勤	49 名	27 名	76 名	25 名
	評議員	21 名		非常勤	44 名	33 名	77 名	9 名
	監 事	2 名	職 員	常 勤	31 名			2 名

※大学教員には、学長、副学長を含む。

※こども園職員には、園長、副園長を含む。

2. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

《大学・短大》

I. 学部・学科の重点的取組

◎中国学園大学

【現代生活学部人間栄養学科】

食を通じて健康の保持・増進に貢献するための栄養学を学び、栄養の専門家を育成し社会に送り出すことを目的として、社会で活躍できる管理栄養士の育成・教育を強化し、その結果、社会で活躍できる管理栄養士の輩出に繋げた。

管理栄養士国家試験合格に向け、3・4年生を対象とした学習の充実を実施し、1年生を対象にした入学時からの基礎学習の支援にも取り組んだ。また、2・3年生では家庭との連携を図る目的により説明会や三者面談を実施した。

1. 学生募集のための広報活動の強化

入学試験受験者・入学者数の増加のため、高校訪問、出張講義、高大連携事業、公開講座の実施など取り組み、広報活動の強化を図った。

- (1) 今年度入学の1年生に母校の高等学校でお世話になった教員あての手紙を書いてもらい、学科教員が分担して手紙を持参して高校訪問を実施した。
- (2) 高等学校からの依頼による出張講義および進路説明を実施した。
 - ・出張講義：4校（参加生徒数61人）
 - ・進路説明（職業理解や栄養分野に関する理解を図る模擬授業等を含む）：岡山県内15校、広島県5校、香川県2校（参加生徒数のべ200人）
- (3) 岡山県立高松農業高等学校食品科学科2年生36人が来学し（8月5日、8日二日間）、本学1号館実験室および実習室にて本学部教員による授業を行い、高大連携事業を実施した。
- (4) 栄養セミナーⅢにおいて、3年生の学生により本学1号館調理室にて調理実習を伴う公開講座を開催した。
- (5) 人間栄養学科インスタグラムにより学科の授業内容やオープンキャンパスの案内など情報発信を継続して行った。

令和6年度入学者目標数を50人としていたが、新入学生数は35人であった。総合型選抜Ⅰ・Ⅱ期の受験者が遅れ、指定校推薦を含めた学校推薦型選抜による受験生も昨年度を下回ったため、令和7年度入試ではオープンキャンパス参加者が総合型選抜Ⅰ・Ⅱ期に受験してもらえるよう、しっかりと確保することが課題である。

なお、令和6年度3年次編入生は3人であった（香川短期大学から2人、辻学園栄養専門学校から1人）。毎年、香川短期大学及び松山東雲短期大学からの編入生があるが、今年度は松山東雲短期大学からの編入生はなかった。今後も両短期大学と良好な関係を維持し、さらに他の短期大学や専門学校からの編入生を受け入れるよう努めていく。

2. 管理栄養士国家試験受験資格取得に向けた学習の促進と国試合格者の増加

入学初期での基礎学力の向上を図り、管理栄養士国家試験受験資格取得に向けた学習の促進につなげた。

(1) 前期「ファーストイヤーセミナー」、後期「栄養セミナーⅠ」のなかで、基礎学力を充実させるため、独自テキストを用いて高校までの数学（計算力）の演習、文章問題の読解演習などを行い、計算力や国語力の向上を図った。

(2) 管理栄養士国家試験対策授業の「管理栄養士演習」「管理栄養士専門演習」「総合演習」の科目のなかで、国家試験合格へ向けた対策を実施した。また空きコマを利用して、学生には復習を奨励し、管理栄養士国家試験に向けた対策を図った。

- ・3年生対象「管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ」において、管理栄養士国家試験に求められる基礎的内容の理解を図るため復習を中心とする授業を実施し、国家試験に対する意識付けならびに国家試験への対策準備を行った。

- ・4年次前期科目「管理栄養士専門演習」において、管理栄養士国家試験に求められる基本的内容の復習及び実践的問題演習等を実施し、理解度の向上及び実践応用力の蓄積を図った。

- ・4年生対象に、夏休みを利用して「ブラッシュアップセミナー」を実施した。学生を成績順に5つのクラスに分け、少人数制のセミナー形式で行った。学生の理解度にあった説明を行った。

- ・4年次後期「総合演習」においては、グループ学修による知識と理解度の向上を図るとともに、定期的に国家試験に準拠した模擬試験を実施し、その解説を行った。

以上の対策により、令和6年度管理栄養士国家試験合格率は、本学 83.3%（管理栄養士養成課程の全国平均合格率 80.1%）と前年度（51.9%）を大きく上回った。

3. キャリアデザイン教育の充実

現場経験のある教員および社会で活躍する卒業生を講師として職業講話を開催し、管理栄養士に対する理解を深め、将来の職業意識高揚を図った。

- ・前期「ファーストイヤーセミナー」、後期「栄養セミナーⅠ」のなかで、実社会における管理栄養士の使命や業務内容を知り、管理栄養士に対する理解を深め職業意識を高めるため、卒業生や管理栄養士資格を持つ実務教員による講話を行った。

- ・3年次前期科目「栄養セミナーⅢA」において管理栄養士に必要とされるコミュニケーション力、スケジュール管理、マナー講座等社会への対応ができる力の醸成を図った。

- ・3年次後期科目「管理栄養士実務演習」において、学校、事業所、福祉施設、病院、市町村の各職域で管理栄養士として活躍している卒業生や臨地実習でお世話になっている管理栄養士を招聘し、講話をしていただいた。

4. 家庭と連携した学生支援

3年生と2年生の学生および保護者を対象に学業や就職活動に関する説明会を行い、また希望者に対して教員との三者面談を実施し、本学科と学生・保護者の相互理解を図った。来学出来ない保護者に対して、Zoomでの対応も並行して行った。

(1) 3年生の学生と保護者を対象に臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験についての説明会を10月6日（土）に実施した。3年次後期からの予定や留意点について担任から説明を行い、就職支援部長にも説明を依頼し、就職に関する最新情報を共有した。併せて希望者との三者面談を実施した。

(2) 2年生の学生と保護者を対象に臨地実習、インターンシップ、就職活動、今後の学生生活における心構えについての説明会を9月28日（土）に実施した。希望する学生と保護者を対象に三者面談を行い、日頃の授業や学生生活における質問、臨地実習や就職活動に関する質問などについて回答した。

5. 地域連携活動による学生の経験値の向上

県内の団体、企業、自治体等と連携し、学生がレシピ開発等の実践経験を積むことで社会貢献に対する理解を深め、コミュニケーション能力を養い、学生生活の充実を図った。

・栄養セミナーⅢの授業の一環として、岡山市保健所、JA 全農おかやま、おかやま市場、岡山市立陵南西公民館、放課後児童クラブ（吉備おひさまクラブ）と連携し、レシピ開発、健康推進啓発活動を実施した。

・栄養セミナーⅣ（卒業研究）の一部のゼミでは、地域の企業や施設（廣榮堂、特別養護老人ホームきび庭瀬）と連携して研究や活動を行い、その成果について白鷺祭時に卒業研究中間発表を行った。

6. 卒後教育の充実

11月24日に、人間栄養学科の同窓会である「花かえで」を開催する予定である。岡山県栄養士会 元会長をお招きし、記念講演として「今後の栄養士、管理栄養士の在り方」についてご講演頂いた。

【子ども学部子ども学科】

豊かな人間性と専門的能力を備えた保育者・教育者を養成するために、令和6年度は次の事業を重点的に行ってきた。

1. 高等学校への積極的な募集広報活動

令和6年度に引き続き、令和7年度の入学者数確保のため、「本学科のミニパンフ」等を活用し、募集広報に努めたが、入学者数が65名から46名に減少した。令和7年度に向けて次のような広報活動を行った。

- (1) 積極的に高校訪問を行い、学科の特色をアピールした。
- (2) 高校訪問の際は、教材やステーションナリー等のグッズを同封した案内を持参し、オープンキャンパスへの参加も促した。11月2日のオープンキャンパスに向けて、総合型選抜Ⅲ期・公募推薦に向けてのステーションナリー等のグッズを郵送した。
- (3) オープンキャンパス時の模擬授業や模擬保育の体験、壁面等の制作物の展示の充実を図り、本学科での学びの様子を高校生に伝え、受験希望校として検討してほしいことを伝えた。

2. 公立保育職・教育職への就職支援

小学校教員、保育園・幼稚園・こども園保育者採用試験の合格者を増やすため、採用試験に向けた学力向上や情報提供の取組等、11年前から継続してきた就職支援事業（教志会）を一層強化し、実績を伸ばした。

(1) 保幼コースと小学校コース 継続的な採用試験対策

教志会を中心とした勉強会や採用試験対策セミナーを実施した。

小学校一次試験対策セミナー 小学校系の授業中、希望があれば随時

小学校二次試験対策セミナー 8/6～8/13

幼保一次試験対策セミナー 随時

実技・面接試験個別対応（4年生対象） 随時

令和6年度は、採用試験対策が功を奏し、教員採用試験の一次については4年生10名が全員合格となった（延べ人数16人）。二次試験については、8名の合格となった（延べ人数9人）。公立の幼保試験については、11人（延べ人数13人）の合格となった。

(2) キャリア教育の充実

「キャリア教育論（前期）」「キャリア教育演習（後期）」の授業で将来のキャリア形成に向けて、コーチングで学生の夢・目標の明確化を図るとともに、就職支援課との連携・協働で、履歴書・エントリーシートの書き方、面接の受け方、身だしなみ等の具体的なガイダンスを行っている。また、幼保、小学校、一般企業の3コースに分かれての丁寧な就職支援も実施した。

3. 認定絵本士の資格取得

令和6年度カリキュラムから「認定絵本土」の資格を取得できるよう、子ども学科教育課程に新規開講科目「子どもと絵本Ⅰ」（令和7年度前期）と「子どもと絵本Ⅱ」（令和7年度前期集中）を置き、準備を進めた。また、認定絵本土関係の講座開講をアピールするため、令和7年2月15日にシンポジウムを開催した。

【国際教養学部国際教養学科】

1. ディプロマポリシー達成のための卒業研究支援

- (1) 専門ゼミⅤ、Ⅵ
指導教員の各ゼミにて研究計画策定、データ・文献収集、データ分析論文執筆方法などの指導。
- (2) 卒論テーマの確認
7月上旬4年生全員の卒業論文テーマを取りまとめ、進捗状況を確認した。
- (3) 中間発表会
8月1日（木）に一人10分（発表6分・質疑3分・入れ替わり1分）でプレゼン形式で実施。4年生17名の卒業論文の進捗状況・今後の予定を確認。
- (4) 卒論の提出
1月27日（月）17:00 厳守で卒業予定の34名全員が期限内に提出。
- (5) 卒業研究発表会
2月3日（月）に実施。卒論提出予定者17名（卒業予定者）が質疑応答時間を含めた発表時間一人15分（発表10分・質疑4分・入れ替わり1分）でプレゼン形式で成果を発表した。また、発表内容を講義室掲示用のポスターにまとめて提出させた。

2. 学習意欲を高める学生指導

- (1) 1年生：入学後オリエンテーション期間及び導入ゼミナールを通じて人権教育、図書館ガイダンス、大学における学修方法について教育。数名ずつ担当教員を決め、研究の進め方について指導するとともに、PBL（課題解決型学修）の実践に取り組みグループ別発表会を実施した。後期は前期のグループによるPBL発表内容を英語でプレゼンした。さらに、全員英語eラーニング教材を受講し英単語力の増進に努めた。学生の学力確認と向上心を高める目標として、年度当初と年度末にTOEIC IPの受験を義務付けた。
5月31日・6月1日には1年生を対象として、1泊2日のオリエンテーション研修を前島の牛窓研修センターにおいて実施した。英語アクティビティや草木染体験、ゲーム等を通して同期生や教員との親睦を深めることができた。
- (2) 2年生：「専門ゼミⅠ、Ⅱ」において、論文、書籍の輪読を通して、先行研究の成果を学修する方法を指導。
- (3) 3年生：「専門ゼミⅢ、Ⅳ」を通して、文献レビューと卒論のテーマ選定の指導。
- (4) 4年生：「専門ゼミⅤ、Ⅵ」において、上記の卒業研究指導。「卒業研究」において、ゼミの成果物としての卒業論文を評価した。
- (5) TOEIC IP： 英語学習の意欲を高める目的で、4月9日と1月30日の年2回実施。
4月9日の受験者は、1年生8名、2年生1名、3年生1名。1月30日の受験者は、1年生2名、2年生1名。

3. 短期・長期海外留学支援

- (1) 夏季語学研修、春季語学研修の実施
令和6年度も夏季語学研修と春季語学研修を科目として実施し、所定の条件を満たせば2単位を取得できることとした。条件としては、留学先を夏季はカナダのバンクーバーアイランド、春季はオーストラリアのシドニーと決め、EF社の語学学校において3週間の語学研修を受けることとした。なお、これらの科目は他学部開放科目とした。令和6年度は夏季語学研修に2名（国際教養学部1年生1名、4年生1名）の参加があった。事

後の聞き取り調査によると非常に高い満足度であった。春季語学研修には希望者がなかった。

(2) 海外インターンシップの計画

GMC の学生を中心に希望者を、ベトナムにあるナカシマプロペラの工場での研修やフエ大学 (Hue University) との交流により、異文化体験や交流に取り組むことを計画したが、応募者がいなかったため実施しなかった。

(3) 長期海外留学

長期 (セメスター) 海外留学は、主に 2 年生を対象に後期に英語圏およびアジアの国際交流提携大学への長期留学を勧める事業として、継続して実施してきた。国際交流提携大学および EF 社語学学校への長期留学を勧める説明会を開いた。しかしながら、円安を含めた世界情勢により希望者がいなかったため実施できなかった。

4. 国際交流事業

(1) MOU (提携校との覚書) の再締結

提携校との MOU の再締結を令和 5 年度にはハワイ大学 (アメリカ)、グアム大学 (アメリカ)、カルガリー大学 (カナダ) の大学 3 校と行ったが、令和 6 年度に再締結を行った大学はなかった。本学と MOU を締結し、現在有効である提携校は 14 校である。

(2) 夏季語学研修、春季語学研修

夏季語学研修と春季語学研修を科目として位置づけ (令和 5 年度の教育課程より)、所定の条件を満たせば 2 単位を取得できるようにしている。条件としては、留学先を夏季はカナダのバンクーバーアイランド、春季はオーストラリアのシドニーと決め、EF 社の語学学校において 3 週間の語学研修を受けることとしており、これらの科目は他学部開放科目となっている。国際教養学部のセメスター留学の説明と併せて、全学対象に説明会を実施している。令和 6 年度は夏季語学研修に 2 名 (国際教養学部 1 年生 1 名、4 年生 1 名) の参加があった。

(3) セメスター留学

国際交流提携大学および EF 社語学学校への長期留学への長期留学を勧める説明会を開いたが、円安を含めた世界情勢により希望者がいなかったため実施できなかった。

(4) ホンバン大学、大葉大学 (台湾)、フエ大学 (ベトナム) との交流

協定を締結した大学と今後国際交流を促進する予定である。

5. キャリア教育支援 (就職支援事業) とインターンシップ

(1) トップリーダー講義

講師: 萩原工業(株) 経営戦略室 室長 高宮 純一、倉敷観光コンベンションビューロー総務企画課 課長 山本俊哲、(株)ウェーブハウス 代表取締役社長 市川 周治、せとうち観光専門職短期大学 准教授 石床 渉 (元小豆島観光協会 事務局長)、社会企業 MPRAESO 合同会社 CEO 田口 愛、(株)ナカシマブレインズ 代表取締役社長 橋本 幸夫、バーズ・ビュー(株) 代表取締役社長 夏井 淳一、(株)トーイングウーマン代表取締役 新井 貴子を招へいして実施。

(2) キャリアデザイン

講師: NPO エリア・イノベーション代表 藤井 智晴、(株)リョービツアーズ専務取締役 小童谷 靖則、ミチナス 代表 長江 由美子、Air Bonheur 代表 藤原 奈緒美、を招へいして実施。

(3) インターンシップ

3 年生 5 名が ANA クラウンホテル岡山、美咲町役場、久米南役場などで実施した。

6. 資格取得支援

3・4 年生のカリキュラムでは観光実務士、上級ビジネス実務士 (国際ビジネス)、社会福

祉主事任用資格は本学の教育カリキュラム履修により取得可能（1・2年生の新カリキュラムでは観光実務士、上級ビジネス実務士(国際ビジネス)、日本語教育課程修了証、社会福祉主事任用資格が取得可能）であり、資格取得申請を勧めた。

また、日商簿記検定や IT 検定、TOEIC、ファイナンシャルプランナーなどの資格も取得するように指導した。

7. 学部広報の充実

(1) 学部のコース構成の広報

リージョナル・マネジメントコース、グローバル・マネジメントコース、アグリ&フード・マネジメント・コースの3つのコースから構成されていることを周知すべく、大学案内、ホームページ、オープンキャンパス、高校ガイダンス、高校訪問などを通じて広報した。なお、Web上の活動として学部のInstagramより、学部の諸活動の紹介を行った。

(2) 高校訪問

6月から8月にかけて県内高校44校、鳥取方面13校、愛媛方面5校、広島方面1校、福山方面3校、外語学校2校に学部教員全員で分担して訪問した。9月からは学科長が訪問先を絞って訪問し広報した。

訪問時は進路課に訪問するだけでなく、知っている教員に会ってPRすることを心がけた。

(3) 高校内ガイダンス

入試広報課から依頼のあった高校において、当該分野の教員を派遣し、高校内ガイダンスを実施した。本学の留学制度や語学教育、PBLと地域連携について説明するとともに、入試制度や授業内容について質疑応答を行った。

(4) 高校での出前講座・講演会

入試広報課から依頼のあった高校において、当該教員が出前講座、講演会を実施した。

(5) シンポジウムの開催

学生達の社会に対する問題意識や関心を高め、主体的に学修する姿勢を導くための学部主催の学術シンポジウムを年1回程度開催する。今年度は11月9日に「新しい時代の英語学修」をテーマとし、近年注目されている生成AIの英語学修への有効活用に向けて、全国的に著名な講師である安河内哲也氏(一般財団法人実用英語推進機構代表理事、東進ハイスクール・東進ビジネススクール英語科講師)を招き、基調講演及びパネルディスカッションを行った。

8. 連携事業

(1) 高大連携

岡山県立玉島商業高等学校3年生を対象とした「グローバル人材育成講座」において、本学教員が年間6回講座を行った。内1回(6月27日)は高校生が本学を来学し、特別授業として、高校生によるプレゼンと、本学学生による学部紹介プレゼンを行うとともに、本学外国人教員によるアメリカ文化講座を受講する形で実施した。

また、高教研英語部会との連携事業として「English on Campus」を8月5日に実施した。「英語プレゼンテーションを始めよう」というタイトルで本学教員2名が講師を務め、1名の高校生の参加があった。

(2) 地域連携

学校法人中国学園と包括連携協定先である久米南町で、山手地区の夏祭りサポート、人間栄養学科安原ゼミと連携した「健康教室・料理教室」開催、スマホ教室(詐欺被害防止へ)などのイベントを開催した。また、過去4年間の久米南町と中国学園大学との農業や食文化の取り組みを総括として、アイデアにまとめた。結果、第5回 学生地域づくり・交流大賞(主催:全国農協観光協会)で、全国2位となる「優秀賞」を受賞した。

美咲町では、高齢者向けスマホ講習会、ハロウィンパーティーサポート、柵原学園7年生向け授業(柵原ドリーム学)でPR動画制作授業などを行った。また、美咲町が抱える課

題解決として、ビジネスプラン（デジタルノマドトラベルジャパン）を完成させた。このビジネスプランは、2024 学生ビジネスプランコンテスト（主催：学生サポートセンター）で「優秀賞」（全国 2 位）、キャンパスベンチャーグランプリ中国 2024（主催：日刊工業新聞社）「中国経済産業局長賞」などを受賞した。

【大学院現代生活学研究科人間栄養学専攻】

本研究科開設以来、継続・直面している課題は入学者定員充足が十分でないことである。本年度は残念ながら大学院入学者を得ることができなかった。これは大学院の魅力を伝えることができていなかったためと考えている。大学院の魅力を伝えるためには、大学院担当教員の研究を学生や社会に伝えることが重要であると考えており、そのためには研究活動を充実させ、論文発表や記者発表などによる広報活動の機会を増していく必要があると認識している。大学において、研究は教育とともに両輪として存在しなければならず、この両輪が揃って初めて大学としての社会的使命を果たすことができると考えている。その研究の充実大学院の責務であると考えている。

そのための事業として研究指導（教育）の充実と大学院入学者確保のための事業を展開している。

1. 研究指導(教育)の充実

今年度は残念ながら在学生在がいないことから研究指導の充実については機会を得ていない。しかしながら、本学 3 年生に大学院進学を希望する学生がおることから、大学院担当教員は研究活動をさらに充実させ、より良い研究環境で学生を迎え入れるよう引き続き努力する。

2. 大学院入学者確保

上述のように、本学 3 年生に入学希望者がいることから、令和 8 年度については入学者の目処が立っているが、令和 7 年度の入学者は現在のところ得られていない。そのため、引き続き、担当教員等による研究指導によりもたらされた結果を、学術集会や学術雑誌に発表することや、在学生に向けての大学院教育説明の機会でもある、現代生活学セミナーを開催し大学院の魅力をアピールしていくことを考えていた。学術集会や学術雑誌への発表は行えなかったが、現代生活学セミナーは 11 月 26 日に開催し大桑先生、楠本先生に発表していただき 3 年生が聴講した。

【大学院子ども学研究科子ども学専攻】

1. 近隣の小学校、放課後児童クラブへの重点的な広報活動

長期履修制度の導入に伴い、現職の小学校教員、学童保育士をターゲットに長期履修を利用しての修学を勧誘した。長期履修制度を説明したリーフレットを作成し、近隣の小学校、放課後児童クラブへ重点的に広報活動を行った。

2. プログラミング教育応援プロジェクトの実施（子ども学部、情報教育センターと連携）

近隣の小学校へプログラミング教材を貸し出すことで、本研究科の知名度を上げるとともに、小学校教諭に大学院子ども学研究科の研究を PR した。その際、岡山市と本学との包括的な連携協定を活用した。

3. 子ども学部 3, 4 年生を対象とした研究科進学説明会の開催

大学院進学の特典や長期履修のシステムを説明する説明会を、子ども学部 3・4 年生を対象として実施した。その結果、令和 7 年度は学部卒業生から 3 名の進学につながった。

◎中国短期大学

【総合生活学科】

総合生活学科は、「生活創造コース」「医療事務コース」「生活福祉コース」の3つのコースに構成され、より快適な人間生活の創造をめざす分野を学ぶ。従来の衣・食・住からのアプローチはもちろん、健康・福祉・環境・デザイン・情報・コミュニケーションなどの現代生活に重要な分野について、専門的な知識や技術を幅広く学び、生活を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、社会の要請にこたえる実践力をもった専門職を育成するため事業計画を進めた結果、以下のように最終報告をする。

1. 総合生活学科運営の充実

令和5年度は生活福祉コースの学生が介護福祉士国家試験で100%の合格率を達成し、コースとしても完成年度を迎えた。したがって本学科の体制は生活創造コース、医療事務コース、生活福祉コースの3つのコースが定着した。令和5年度は生活創造コースのファッション・デザイン系を非常勤で運用してきたが、令和6年度は教員を増員し、ファッション・デザイン系の教育の充実を図り、学生の学習支援に力を入れてきた。このファッション・デザイン系の学習支援は普段の授業だけではなく、前半期のオープンキャンパスにおけるファッション・デザイン系の学生参加が増加した効果をもたらした。また、新任教員を迎えたコミュニケーション系の授業のリニューアルによってコミュニケーション系の授業がより一層充実している。この効果もオープンキャンパスを通じた学生参加が増加し、教員と学生間の信頼の構築が示された。

2. 学生募集のための広報活動の強化

令和6年度の学外向けの広報活動は、学科教員の高校訪問、4月に津山での短期大学3学科の共同出張オープンキャンパス、7月に福山での夏のイベントなどを実行した。一方、学内向けの活動は、高校生の本学訪問の対応、広報用のセカンドパンフレットの改変、インスタグラムやHPによる広報活動の強化、11月オープンキャンパス用のポスター制作と配布、学内のOCなどを実施した。特に令和6年度の後半期は、このオープンキャンパスの内容をさらにリニューアルされ、より多くの高校生にPRすることができた。

3. 地域連携強化

地域貢献と未来の学生募集のため、近隣の吉備中学校と連携を計画し、連携会議を重ねて、短期大学の出張授業の拡大を図った。9月には新しく着任した吉備中学校の校長先生に本学の取り組みについて説明され、前向き検討したいとの承諾を得ることができた。本学の講座案内と吉備中学校内に本学の学園祭のポスター掲示などをお願いし、中学構内に掲示してもらった。次年度も学生募集に繋がる連携プログラムを実行する計画である。

また、各教員の地域貢献活動は7名の教員が19件の講座やセミナーなどを通して地域貢献を果たした。

4. キャリア支援の実践的運用の充実

令和6年度は、より効率的かつ効果を図るために既存の「キャリア開発演習」と「キャリア基礎演習」を「キャリア開発演習」に統合し、できる限り多くの学科教員が携わるプログラムに変更した。4人の学科教員が授業に加わり学生1人ひとりのキャリア支援を行った。その結果、対象となる2年次生全員が就職先を確保することができ、就職率100%を達成した。キャリア教育や支援に多くの学科教員の関心により実践的なキャリア教育の効果を示した。

5. メンタルヘルス教育の充実

本学科は学生のこころの問題や人間関係による休学・退学、卒業後の職業性ストレスによる離職を防止するため、メンタルヘルス教育をより充実を図っている。その一環として令和5年度に「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種」を導入し運用中であり、令和6年度からは2年生に「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種」の検定を導入し運用している。また、心理療法の専門家である新任先生の入職より、本学科のコミュニケーション系の授業やイベントの充実を図ることができ、学生のみならず学科の先生たちもアドバイスを受け学生支援につなげている。

このメンタルヘルスに対する理解を深める取り組みを強化した結果、学生の相談件数が増加し、早期支援につながるケースが見られた。

【保育学科】

本学科の育成する人材像である「乳幼児の保育・教育の教育研究を通じ、専門知識ならびに技能の習得を図り、保育・教育現場において一人ひとりの乳幼児に合わせた指導のできる保育者として寄与できる人材」を養成するため、主として次の事業を実施する。

1. たねのくにこども園と連携を図った魅力ある授業づくり

1年生前期に開講される保育者基礎演習において、63名の学生がたねのくにこども園における3歳未満クラスと3歳以上クラスの2度にわたって訪問して、保育者のかかわりや子どもたちの様子、環境構成を見学し、これから本格的に始まる保育の学習の礎とする実践を行った。

2. 保育実習・教育実習における学びの総合化

保育実習・教育実習では、事前・事後指導に加えて現役の保育士や施設職員・幼稚園教諭・保育教諭が特別講義を実施することで、実習における学びの充実を図っている。

○保育実習：6/17に2名（4年目と2年目）の先輩

○幼稚園実習：10/3に2名（5年目と3年目）の先輩、それぞれに講演していただいた。

3. 第52回保育学科発表会等の開催による学修成果の発表

保育学科発表会を開催し、2年間の学びを地域や保護者の方に披露する計画で後期から取り組みが始まっている。

○令和7年2月11日（火・祝）中国学園体育館にて開催し、300名の観覧者があった。

4. 地域連携・地域貢献の推進

中短子育てパーク事業を吉備公民館と共同開催し、親子ふれあい演習の授業の一環として、学生が企画した室内遊びや中庭での水遊び等を実施することを通して、地域の子どもや保護者との交流を行っておいる。

○5/23：2組4名（0歳児1名、2歳児1名）の参加

○6/20：5組13名（0歳児2名、1歳児2名、2歳児2名）の参加

○11/14：6組15名（0歳児1名、1歳児1名、2歳児3名、3歳児2名）の参加

○12/12：10組21名（0歳児3名、1歳児1名、2歳児2名、3歳児2名）の参加

○1/16：7組14名（0歳児3名、1歳児2名、2歳児2名、3歳児1名、4歳児1名）の参加

5. 保育職を中心としたきめ細やかな就職支援

ひとり一人と面談し、学生の就職希望園を絞り、就職試験の内容に合わせたサポートをしながら、自分の力で就職活動を進められるようにサポートしている。

○前後期1回ずつ、就職担当教員が2年生全員と面談し、就職についてのサポートを行った。

6. ホームカミングデイ、リカレント研修会等の開催による卒業生支援

前年度の卒業生の就職先を訪問し、本人の様子を把握するとともに、6月にホームカミングデイを実施して相談を受けるなど早期離職を回避できるよう努める。

○ホームカミングデイ：6/2（日）32名の参加

○リカレント研修会：10/13（日）松井みさ教授「手作り楽器を演奏しよう」7組の参加

○卒業生のためのしゃべり場：10/13（土）8名、/14（日）27名 計35名の参加

7. 学科の魅力を発信するための広報活動の充実

- ・四国や山陰からの入学者獲得を目的に、参与の方に同行いただき、高校訪問を実施している。

○前期：四国4県の高校を2名の教員が分担して訪問。愛媛県から3名の受験者あり

- ・高大連携を利用して、高校での出前授業を継続的に行う。

○前後期：岡山南高校において、複数回の出前事業を実施。今後も継続的に実施する。

- ・SNS等を利用して、保育学科の魅力を多くの人に知ってもらえるよう発信を継続している。

○Instagramを中心に授業や行事の様子を配信している。

フォロワー：638名（令和7年4月）

【情報ビジネス学科】

情報ビジネス学科では、「情報処理やビジネスに関する専門的・実践的な教育研究を通じ、職業人としての能力の習得を図るとともに体験学習などを通して総合的な人間力を養い、地域および広く社会の発展に寄与する人材の育成」に取り組んでいる。

1. 学修内容の質的レベルアップ

資格試験合格者が増加するなど会計ファイナンス分野を中心にビジネス系科目では学修内容のレベルアップが実現できた。情報系科目の質的レベルアップが課題である。

2. メタバース系科目の導入・拡充

最新の機材（ヘッドマウントディスプレイ）を追加購入して設備の充実を図り、授業（「クロスリアリティ」）やオープンキャンパスの体験コーナーなどで活用している。

3. 課題解決型実践学修

株式会社マイスタイル（岡山市）と連携し、学生が地元の子どもたちと一緒にYouTube体験を行うなど実践学修を行った。

4. 募集広報活動

オープンキャンパスなどのイベント用に学科の「のぼり」を6本作成し、学科の認知度向上につとめた。

5. 学修評価

学修ポートフォリオの活用や面談等を通して、学生の学修状況についての把握を行った。また、新しい資格奨励制度の導入などにより、積極的に資格を取得する学生数が増加した。

Ⅱ こども園の重点的取組

1. 認定こども園としての教育・保育事業

本園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うため、小学校就学の始期に達するまでの子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的としている。

令和6年度は、3歳未満児53名、3歳以上児112名、合計165名の子どもたちに教育・保育を行い、42名を卒業させることができた。本園は定員200名で設計されているが、保

育教諭の確保が難しくなっていること、職員配置基準が変更されていること（令和6年度から4～5歳児クラスは30対1を25対1に、3歳児クラスは20対1を15対1に、1歳児クラスは6対1を5対1に変更）、1号児（教育利用）のニーズが少なく定員が充足できないことなどから、200人定員を実現できない状況があるため、令和7年度中の見直しが必要となっている。

教育・保育は、中国学園の教学の理念「自律創世」を基に「協力できるやさしい子・工夫できるかんがえる子・挑戦できるたくましい子」の育成を目指している。そのために、友だちと一緒に遊び・生活する経験、様々な自然・文化と出会う経験、様々な失敗・困難・葛藤を乗り越える経験を、子どもたちに提供してきた。

2. 保護者、地域の子育て家庭に対する子育て支援

（1）園児の保護者に対するもの

延長保育事業、幼稚園型一時預かり事業、教育・保育相談を実施した。

（2）地域の子育て家庭に対するもの

令和6年度の新規事業として「地域ふれあい祭り」を10月26日に開催し、在園児・卒業児・地域の方・中国学園関係者を合わせ、500名の参加があった。本園職員による手作りコーナーや福引・ヨーヨー釣り（有料）を用意するとともに、中国学園大学の教員・学生と本園職員による和太鼓の演奏や大学生と本園職員によるバンド演奏等を行い、参加した地域の方々は大変満足してくださり、本園の存在を地域にアピールすることができた。

地域の子どもたちを対象とした一時預かり事業は4名の登録があった。

子育て支援講座は、大学・短期大学の教員のご協力の下、8回開催し、53家庭の親子が参加した。ふれあい親子広場は、月1回年9回実施し、親子で164名が利用した。そのうち令和6年年度の新規登録者は29組（家庭数）だった。

地域の親子クラブ「杉の子会」に年3回場所を提供し、地域の子育てに貢献するとともに、地域の方に本園を知ってもらう機会とすることができた。

父親も参加する親子会を日曜日に2回実施し、親子で26名が利用した。父親の子育て参加の機会をつくると共に、父親と本園との関係を深めることができた。

3. 大学・短期大学との協働

大学・短期大学の教員や学生の調査研究や授業及び各種実習等可能な限り受け入れ、学園と園とが互いに学び合う姿勢で臨んだ。

（1）園児対象にした大学・短期大学の教員・学生による遊びの提供

定期的に、運動遊び、プログラミング、英語遊び、エプロンシアター、わらべうた、リトミック、科学遊び、体操、歌指導などを提供していただいた。

（2）大学・短期大学の教員や学生を対象にした本園による学習機会の提供

本園での授業（子ども学科・保育学科）、保育実習（子ども学科・保育学科）・教育実習（子ども学科・保育学科）の受け入れ、調査・研究への協力（子ども学科・人間栄養学科）、学生サポーター・学生ボランティアの受け入れ等を行った。

4. 教育・保育の質の向上のための研究・研修事業

大学・短期大学教員の参加による園職員対象の園内研究を3回実施した。実践事例の取り方、分析・協議の仕方等が改善され、大いに学び合うことができるようになった。また、随時、大学・短期大学教員による園内研修も実施した。

岡山市保育協議会、岡山県保育協議会等の園外で実施された研修会にも参加し、教育・保育の質の向上を図った。

Ⅲ 事務局及び機関の重点事業

1. 学生確保の取組みの充実・強化

入試広報部独自の取組だけでなく、各学部・学科と協力した募集・広報活動に取り組んだ結果、短期大学の入学者数は、前年度とほぼ同様であったが、大学の入学者数は前年度よりも減少した。その大きな要因は、他の県内私立大学も年内入試（総合型選抜）での入学者数の確保に力を入れており、不合格者を出さなくなってきたことと、本学の学部構成が全国的に志望者を減らしている学問系統であることだと考えられる。

(1) さまざまなチャンネルにより高校生、保護者、高校教員と接触し、信頼関係を構築した上で、本学の魅力を対面で発信する。

①高校訪問 入試広報部職員 879 校（内：学科教員と同行 135 校）

②会場ガイダンス 参加回数 14 回（令和 5 年度 11 回）。そのうち 3 回、学科教員と参加

③高校内ガイダンス 参加回数 総数 121 回

入試広報部 54 回（うち 3 回学科教員と参加）、人間栄養学科 22 回、子ども学科 1

回、国際教養学科 3 回、総合生活学科 3 回、保育学科 13 回、情報ビジネス学科 7 回

④出張講義 14 校（32 回）

⑤プライベートオープンキャンパス （29 名参加 18 名出願）

⑥中国短期大学保育学科説明会 in 福山 （入試説明会終了後）

6 月 5 日（水） 福山ニューキャッスルホテル（16 時～17 時）

⑦大学見学会 9 校

⑧母校訪問 2 校：高松農業高校（総合生活学科 3 人）、共生高校（保育学科 1 人）

(2) Web での情報発信・広告を見直し、内容、方法を改善する。

①TVer での OC 告知動画配信

5 月 25 日～6 月 12 日、6 月 29 日～7 月 17 日 8 月 9 日～8 月 24 日

完全視聴率は 93%を超えている。他校実績と比較しても同程度の実績値。

②インスタ LIVE

8 月 25 日（日）OC に向けたインスタ LIVE 研修会（計 5 回）

8 月 5 日（月）インスタ LIVE 配信

(3) 時期、対象に応じた印刷物での情報発信を強化する。

①総合型選抜の説明、オープンキャンパスの案内など、特定の時期に注目される内容に限定したチラシを作成し、各学科作成の独自リーフレット等とあわせ高校訪問で活用している。

②保護者用、入試制度に焦点化したリーフレットは本学関係者、受験生・保護者のいずれからも評判がよい。

(4) 中国学園の知名度を UP するため、新聞広告、テレビ CM、インターネット広告や YouTube、SNS を利用した広報を積極的に行う。

①TV（OHK、TSC、RNC、RSK）動画配信（7 月から 9 月まで）

RNC めぐるナイ（木曜日 20 時～21 時）

RSK それスノーマンにやらせてください（金曜日 20 時～21 時）

TSC 出川哲朗の充電させてもらえませんか（土曜日 20 時～21 時）

OHK 千鳥の鬼レンチャン（日曜日 20 時～21 時）

②テレビ出演

OHK「なんしょん？」に学生 2 名が出演（人間栄養学科、総合生活学科）

7 月 16 日（火）15 時 50 分～16 時 50 分

2. 学生支援の充実

教学の理念である「自律創世」の考えを基本として、学生の自主性を尊重し、多様化する学生の実態をとらえ、学生の自律心、社会性、人間力を育てるための施策を企画し、学生支援の質の向上を図る。

(1) 就職支援の充実強化

①各学部・学科の教員と就職支援センターの職員との連携強化を推進する

ア 3月31日現在の就職状況 (※↓は4/3現在のもの)

		令和6年度					令和5年度(3/29)	
		卒業者数	就職希望者数	内定者数	内定率	進学者数	内定者数	内定率
大学院	人間栄養学専攻	0	0		—		1	—
	子ども学専攻	0	0		—			—
	小 計	0	0	0	—	0	1	—
大学	人間栄養学科	44	43	41	95.3%		23	74.2%
	子ども学科	71	65	65	100.0%	3	86	93.5%
	国際教養学科	17	16	15	93.8%		31	93.9%
	小 計	132	124	121	97.6%	3	140	89.7%
短期大学	総合生活学科	48	45	44	97.8%	2	47	94.0%
	保育学科	80	77	74	96.1%		73	94.8%
	情報ビジネス学科	48	44	42	95.5%	3	35	87.5%
	小 計	176	166	160	96.4%	5	155	92.8%
合 計		308	290	281	96.9%	8	296	91.4%

※9月卒業含

進路相談等での面談状況は年間を通じて延293人(25卒学生、1月末)であった。また、学科独自の早期面談については、新しく総合生活学科の26卒54人実施した。学部学科からの要請もあり、次の表のとおり連携している。昨年、一昨年実施の情報ビジネス学科からは、26卒31人実施した。

なお、人間栄養学科については、3年生とその保護者向けに就職についての説明時間をいただき、10月6日(日)に実施した。

令和6年度当面就職支援センターと学部学科との連携状況(3月31日現在)

	求人票検索説明会	就職について説明等	面談
人間栄養	2年、4年	4年	
子ども	4年		
国際教養			4年
総合生活	1年、2年	1年	1年
保育	2年		
情報ビジネス	2年		1年

イ 就職支援委員会

就職支援委員会は8回実施した。内容は次のとおり。

回数	実施日		内 容	会 場
1	4/3	水	令和6年度事業計画、委員会年間計画スケジュール、学科と協力して実施する計画、学内相談会詳細企画、令和5年度の就職状況、求人票受付新システムについて	M202
2	5/22	水	学内なんでも相談会について、学科別ガイダンスの状況、各学科の就職活動・支援活動について、就職(進路決定)への支援の仕方、学生情報について(学科別センター利用状況)、次回就職支援委員会日程について、卒業生の就職支援センターについてのアンケート結果について、令和5年度最終の内定状況について	M202
3	6/26	水	学内なんでも相談会について、求人及び就職活動・支援活動について(求人データ、昨年との比較)、学科別センター利用状況について、来室目的について、各学科の就職活動・支援活動について、起業就労アンケート結果について、6/20現在の内定率について	M202
4	7/17	水	学内相談会について(今後の実施)、求人状況及び支援活動について、各学科の就職活動・支援状況について、7/16現在の内定率について、労働局調査について(依頼)、後期学科別ガイダンスの計画について	M202
5	10/23	水	ガイダンス参加状況について(学部・学科別実施、全体実施)、求人及び就職活動・支援活動について(求人データ、昨年との比較)、研修・出張報告(第54回中国・四国私立大学就職担当者連絡会)、各学科の就職活動・支援活動について、内定率状況、卒業生アンケート、労働局調査の協力依頼、出張ハローワーク情報、個人カードの提出依頼、「求人のためのご案内」冊子について、就職ガイドブックデジタル化について、各学科の就職活動・支援状況について	M202
6	12/18	水	ガイダンス参加状況について(学部・学科別実施、全体実施)、求人及び就職活動・支援活動について(求人データ、昨年との比較)、次年度ガイダンス案について、研修・出張報告(令和6年度就職部課長相当者研修会)、2026年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方について、過去7年分の内定率の推移、各学科の就職活動・支援状況について、次回就職支援委員会日程変更について	第2会議室
7	1/22	水	ガイダンス参加状況について(学部・学科別実施、全体実施)、求人及び就職活動・支援活動について(求人データ、昨年との比較)、次年度ガイダンス スケジュール変更案について、公欠の在り方について、第7回ガイダンスの申込み状況について、過去7年分の内定率の推移、各学科の就職活動・支援状況について、「求人のためのご案内」発送先について	M202
8	2/19	水	ガイダンス参加状況について(学部・学科別実施、全体実施)、求人及び就職活動・支援活動について(求人データ、昨年との比較)、大学コンソーシアム岡山主催「岡山県合同企業説明会」参加促進について、次年度学科別ガイダンス希望調査について、デジタルガイドブック内容について、各学科の就職活動・支援状況について	M202

ウ 学内なんでも相談会の実施

目的

- ・学生が就職支援センターの職員を知ることができ、就職支援センター利用促進になる
- ・早くから学生の就職への意識が芽生え、職業観・勤労観の育成につながる
- ・相談することにより、学生本人のコミュニケーション能力の育成につながる

日程（次のとおり）

【場所】① 図書館前休憩スペース ② 1号館1階東側ピロティ ③ 庭園東屋

【時間】12:15～13:15 （月・火・木・金） 14:30～15:30 （水）

2024 6 June						
日	月	火	水	木	金	土
2	3 【時間】12:15～13:15 【場所】①	4	5 【時間】14:30～15:30 【場所】③	6	7 【時間】12:15～13:15 【場所】①	8
9	10	11 【時間】12:15～13:15 【場所】②	12	13 【時間】12:15～13:15 【場所】①	14	15
16	17 【時間】12:15～13:15 【場所】①	18	19 【時間】14:30～15:30 【場所】③	20	21 【時間】12:15～13:15 【場所】①	22
23	24	25 【時間】12:15～13:15 【場所】②	26	27 【時間】12:15～13:15 【場所】①	28	29
30	7/1	2	3 【時間】14:30～15:30 【場所】③	4	5	6

相談件数

学科	人間栄養				子ども				国際教養				人
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
相談人数	1	0	5	0	0	0	9	0	0	4	2	0	

学科	総合生活		保育		情報ビジネス		人
	1	2	1	2	1	2	
相談人数	6	2	1	3	17	3	

相談会の様子



相談内容

・総社市のインターンシップについて ・マイナビ 2026 の登録について ・観光、ホテル関係の就職を希望している ・大阪で就職（飲料メーカー）を考えている ・福山もしくは広島で就職希望どのように進めていけば良いのか ・7月のインターンシップフェアでは遅いのか医療事務、事務職を希望 ・自己分析の重要性を説明 今後のイベントのチラシを渡す ・インターンシップマッチングフェアの参加を促す ・行かないといけないと思っているが動けない ・病院の管理栄養士を希望 今後どのように活躍を進めていけばよいのか ・料理関係が好き 「管理栄養士」を目指す	・岡山県内で専門職として就職希望 赤磐市と倉敷市 公立を受験予定 ・保育園か幼稚園かで迷っている ・小学校教諭を目指す 大学3年生チャレンジ選考を受ける ・小学校教員を目指す 試験勉強について ・岡山県小学校教員を目指す 他県への受験はどうか ・倉敷市の公立を希望しているが ・大阪の歯科助手 志望動機相談 ・私立保育園を考えている 「良いところは？」 ・「保育士」資格を活かした仕事を考えたい。（保育園ではなく） ・OSK 岡山に就職希望 ・関東方面の保育園はどのように探したらよいか ・SE で探しているが、他の企業も考えたい ・就職してもソフトボールを継続したい
---	--

②就職ガイダンスの工夫と改善・充実

ア 学部・学科別実施

ガイダンス名	学科	学年	日にち	曜日	参加人数
(学科別)スタートアップ就活準備ガイダンス ～就職支援センター紹介～	国際	3	4/5	金	5
	情ビ	1	4/8	月	31
	保育	1	4/19	金	63
	子ども	3	4/24	水	53
(学科別)スタートアップ就活準備ガイダンス① (超入門編)～就職支援センター紹介～	総生	1	5/8	水	60
(学科別)スタートアップ就活準備ガイダンス② ～就職支援センター紹介～	総生	1	9/26	木	52
(学科別)ここから始める仕事研究・インターンシップ ～就職情報サイトの利用について～	栄養	3	4/4	木	61
	情ビ	1	4/12	金	33
	総生	1	5/29	水	53
	国際	3	5/29	水	5
	子ども	3	7/31	水	52

ガイダンス名	学科	学年	日にち	曜日	参加人数
(学科別)面接対策講座	国際	3	10/21	月	6
(学科別)就職パワーアップ講座 ～求人票の見方～	国際	3	10/28	月	8
求人票検索方法	総生	1	10/31	木	49
(学科別)履歴書・ES対策講座	情ビ	1	11/12	火	29
	総生	1	11/14	木	48
(学科別)面接対策講座	情ビ	1	11/26	火	30
	総生	1	11/28	木	49
	子ども	3	12/2	月	24
(学科別)就職パワーアップ講座 ～求人票の見方～	子ども	3	12/16	月	9
	総生	1	1/9	木	49
	情ビ	1	1/14	火	29
(学科別)履歴書・ES対策講座 および面接対策講座	栄養	3	2/13	木	53
(学科別)履歴書・ES対策講座	保育	1	3/4	火	51
知って役立つワークルール	総生	2	12/17	木	43
知って役立つワークルール2	総生	2	12/24	木	37

今年度新規に、学部・学科別ガイダンスを実施した。これにより、学生の参加率が大きく上昇した。また、就職活動に必要な知識・技術を伝えることができた学部・学科別実施状況を一部紹介する。



国際教養学部国際教養学科

保育学科



総合生活学科

カードを活用した性格診断

イ 全体実施

ガイダンス名他	人数	栄養	子ども	国際	生活	保育	情ビ	合計
第1回(10/2 水)	申込数	0	18	6	50	61	10	145
身だしなみ	参加数	0	17	4	47	38	8	114
第2回(10/9 水)	申込数	0	21	4	50	54	10	139
メイクセミナー	参加数	0	18	1	50	32	5	106
第3回(10/16 水)	申込数	1	23	4	49	47	7	131
先輩からのメッセージ	参加数	0	16	3	42	43	10	114
第4回(11/13 水)	申込数	0	1	1	54	1	13	70
企業研究①	参加数	0	0	1	47	2	12	62
第5回(12/4 水)	申込数	0	20	3	44	0	13	80
学内仕事研究・ インターンシップフェア	参加数	0	20	2	39	0	12	73
第6回(1/15 水)	申込数	0	5	2	44	0	6	57
企業研究②	参加数	0	6	2	49	0	7	64
第7回(2/5 水)	申込数	0	4	4	28	0	12	48
企業発見！企業研究セミナー	参加数	0	4	4	23	0	7	38

ガイダンスの風景



身だしなみ講座



メイクセミナー



先輩からのメッセージ



企業研究①



学内仕事研究・インターンシップフェア



企業研究②



企業発見！企業研究セミナー

③インターンシップの推進・強化

インターンシップの実績は、就職支援センター提出の報告書によって把握している。本学では、「1 day 仕事体験」についても、積極的に参加を呼び掛けている。今後、報告書の提出を学部・学科就職支援担当の先生方の協力をいただき、できるだけ正確な参加人数を把握したい。

また、実施事業所は増加しており、その都度学生にメールで知らせている。今回新たな取り組みとして、「なんでも相談会」時に実施企業のリーフレットを掲示した。同時に、リーフレットを通りがかりの学生に配布した。報告書の提出があったのが、人間栄養学科から1人、情報ビジネス学科から14人の提出があった。

④就職支援システムの改善

昨年までは、企業等の独自の形式による求人票を、本学の形式に全て書き換えて学生に表示していた。しかし、学生たちの実状は、送付されている求人票そのものを見る傾向にあった。システムを変更し、職員の入力時間を短縮し、その時間で一人でも多くの学生の相談にかかわることができるようになった。年々、学生からの要望も多く、履歴書の添削等に時間をとられている。学生からも「メールを見ました」との声も聞くようになり、情報のすばやい提供ができています。

(2) 学生生活への支援

学生が主体となっていく大学祭・七夕祭・クリスマス会等の学友会活動及びサークル活動が円滑に運営されるようサポートを実施した。

- ・学生生活実態調査、学生意見箱、学長と語る会、学生生活向上委員による提案会等を実施し、学生の意見を集約し、学生生活の改善に努めた。
- ・学生支援セミナーは、「学生課リエンション」「消費者トラブルにあわないために」「性の多様性とより良い人間関係のために」「エイズ・性感染症・性教育講座」の4回実施した。
- ・レンタルサイクルやレンタル傘等の日常生活支援

学生へのレンタル用に自転車5台、傘70本を常備し、学生への便宜を図っている。利用者数は、自転車延べ165人、レンタル傘延べ40人であった。今後も計画的に新しい自転車・傘を購入し、学生の利用を図る。

(3) 学生相談及び健康管理の充実

学生の定期健康診断は、例年通り4月に実施し、受診率は99.8%であった。また、定期健康診断の事後措置として、要精検者6名に対して個別に健康指導を実施した。

学生相談については、臨床発達心理士と連携を図り学生の修学支援に努めた。

障がい学生修学支援については、合理的配慮を実施した学生が2名であった。令和7年度も引き続き合理的配慮を実施し、学生の修学支援を行う。また、大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」とも連携を密にし、今後一層の支援対策を整えていく。

学生間での集団感染や感染拡大を未然に防止するため、麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・水痘の予防接種証明書の提出を徹底し、免疫有無の状態を把握している。また、定期健康診断の結果をもとに健康教育にも取り組んでいる。

(4) 学生への経済的支援

大学・短期大学とも高等教育修学支援新制度の対象機関として文部科学省より認定を受けている。

本学独自の奨学生制度では、令和6年度学業成績特待生に16名、修学支援優待生に6名が採用された。その他卒業生の子の入学優遇制度に9名、兄弟姉妹在学生支援制度に4名が該当した。日本学生支援機構の奨学生は令和6年度、大学、短大と合わせて420名で学生全体の49%に達している。

さらに、本学提携の民間金融機関の教育ローンの紹介にも努め、個人相談にも随時対応した。

(5) 学生生活及び学生支援に関わる施設設備の充実

- ・1日学生駐車場の許可を含めた学生駐車場の有効活用

現在、学生用に 91 台分の学生駐車場を設けているが、令和 6 年度の許可台数は 71 台であった。また、臨時 1 日駐車場の許可台数は延べ 32 台であった。自動車通学の許可を受けた学生には J A F 及び岡山西警察署による交通安全講習会の受講を前期と後期の 2 回義務づけ、交通事故防止に繋げている。

- ・ JR 庭瀬駅からの通学路の交通安全指導

本学学生の大学 5 割、短大 6 割が JR 通学している現状から、新入生オリエンテーションにおいて通学路における交通安全指導を行うとともに、授業開始の 4 月及び 5 月、そして秋の全国交通安全運動期間の 9 月に各 1 週間教員及び交通委員の学生が街頭交通安全指導を行った。

- ・ 学生食堂の食事内容やメニューの改善

学生食堂の業者の変更があった事から学生の間には一時不満が高まったが、食堂の環境改善や学生のニーズにあった充実したメニュー作りを依頼することにより、徐々にではあるが学食利用者が増加している。売店の商品の品揃えについて学生からの要望意見が多いことから、業者へ品揃えの充実を要請した。

- ・ 光風寮の設備・備品の更新や生活環境整備

学生寮の設備・備品の更新や改修を毎年進め、生活環境の改善・整備を推進している。学生寮は、築 30 年以上となり老朽化が進んでいるが、計画的に改善を行っていく。

3. 図書館活動の充実

(1) 学生・教職員の学習・教育・研究に必要な学術情報を収集、保存・管理、提示・教示する。また、「知の拠点」として知的交流活動の場の提供も行った。

- ・ 今年度は小学校の教科書改訂の年であるため、教科書及び指導書を更新した。
- ・ 学生が資料を探しやすいよう、開架書架の整理・図書の移動を行っている。同時に副本が多数あるもの、古い問題集などは除籍・廃棄した。
- ・ 学生の文章力向上のため、図書館大賞の募集を行った（「読書感想文部門」「自由部門」「レポート部門(新設)」）。応募総数は読書感想文部門 1 篇、自由部門 66 篇、レポート部門 0 篇で、読書感想文部門 1 名、自由部門 3 名の入賞者を表彰した。

(2) 学生の学修をサポートするためにオリエンテーションや文献検索講習会を開催したり、ラーニング・コモンズを設置するなど学習環境の整備を行った。

- ・ 例年行っている新入生オリエンテーションは、学部学科の協力で全 1 年生に実施した。
- ・ 導入ゼミ、フレッシュャーズセミナーで OPAC 検索講習を行った。
- ・ 講習等で使用する学生用マニュアルは講習会前に確認し、修正を行った。
- ・ 学生のインターンシップの受け入れをした。

(3) 学生の意見を図書館運営に取り入れるため、ブックハンティングツアー等を実施したり学生図書館サポーターを育成して積極的に活用したりする。学生図書館サポーターの提案により展示型書架を設置したので、学生の自主的な企画展示を促した。

- ・ 8 月に実店舗に赴くブックハンティングツアーを行い、大学・短大から 7 名の参加があった。ブックハンティングで選書された図書は展示型書架に配架しており、学生作成の POP を掲示した。なお、参加者募集には従来からのポスター掲示のほか、UNIPA も活用した。
- ・ 年末年始の休暇期間を使ってインターネットブックハンティングを行い、大学・短大の学生 10 名の参加があった。学生作成の POP も募った。
- ・ 学生図書館サポーターは令和 6 年度は自主的に名乗りを上げたのは 1 名だったが、催し物の手伝い、返却図書の配架や新着資料の装備をきちんとこなすことができた。
- ・ 「中国学園図書館えほんミュージアム」の看板が作成から 10 年以上たち劣化してきていたので、看板コンテストを行い、3 点の応募作から学生 2 名のデザインを採用し、新しい

ものを作成し設置した。

・子ども学部子ども学科図画工作教育学の卒業制作作品である「読み聞かせ広場」の看板が、図書館に寄贈された。

(4) 図書館の資料だけでなく、大学の有形・無形の知的財産も収集、保存・管理、提供し、「知の拠点」として知られるよう、また利用促進を図るためにも展示・広報ペーパー・Webページでの発信に力を注ぐ。本学の知的財産は「図書館 de プチ講座」その他の講座を通して学生だけでなく地域にも公開することで「地域に開かれた大学」の一端を担った。)

・中国学園リポジトリ(CUR-REN)に『中国学園紀要』第23号・『Chugokugakuen journal』Vol.22の掲載論文を公開した。

・「第23回図書館 de プチ講座 オペラって面白い!」を開催した。

・中国学園図書館えほん講座 No.28「図書館でクリスマス 2024」を行い、学生が学修成果として絵本の読み聞かせやハンドベル演奏等を行った。

・図書館講座として「カンヌ映画祭出品作品上映会『倉敷物語はちまん』」を開催した。

・図書館主体、あるいは学部・学科からのお申し出・ご協力による展示は表のとおり。

展示期間	内容	学部・学科
4/14～6/5	中国学園図書館 Book of the Year 2023 年度	
5/20～8/22 6/7～8/22	「実践学修の学び方」授業成果物優秀作品 同 関連図書	情報ビジネス学科
5/27～6/28	岡山県子ども・福祉部子ども家庭課からの 寄贈図書	
6/21～8/22	七夕飾り	子ども学部子ども学科
6/27～3/31	水族館のクリームソーダ	保育学科
6/21～9/20	フォトブック(アンケート結果を授業にフィードバック)	保育学科
8/23～9/2	食中毒関連図書	
8/27～12/3	〇〇をキャラクターにしたらこうなった!!	
9/2～2/5	ブックハンティングツアー選定図書	
12/13～12/27	クリスマスからお正月へ	
12/27～3/31	追悼 2024年に亡くなった絵本作家の作品	
1/22～2/3	子ども学部子ども学科図画工作教育学 卒業制作	子ども学部子ども学科
2/6～3/31	インターネットブックハンティング選書図書	

・各種講座の開催や募集のお知らせは、チラシや新聞などと共に学園ホームページやUNIPAも活用した。

・広報誌としては『図書館だより』(令和6年度図書館大賞受賞作品集)と『図書館ニュース』臨時号を作成した。

(5) 「地域に開かれた大学」の図書館として一般利用者への図書館開放、図書館主催の各種講座の開催、地域の小学生を対象とした読書感想文コンクールの実施などを継続して行う。また、各学校の教育実践(校外学習、職場体験など)の依頼にも図書館の基本的業務が許す範囲で応えた。

・一般利用者への図書館開放、岡山県立図書館との連携によるインターネット予約資料の受け渡し、資料返却を行った。

・岡山市女性が輝くまちづくり推進課の依頼により、「さんかくウィーク 2024」の学生参加型展示(「幸せを感じる瞬間はどんな時ですか」)を行った。

・「第23回図書館 de プチ講座 オペラって面白い!」は一般にも参加を募り、13名の来館が

あった。

- ・小学生向けの講座「夏休み小学生講座 in 中国学園図書館 2024 簡単&楽しい! 科学実験フェスティバル」を行い、13組 32名の参加があった。
- ・地域の小学生を対象とした「図書館大賞(小学生の部)」(読書感想文コンクール)は今年度も行い、60篇の応募があった。
- ・「図書館大賞(中学生の部)」を新設し、地域の中学生から 217 篇の応募があった。
- ・岡山市立吉備中学校の依頼により、1 年生の国語の授業で作成した本の紹介 POP の優秀作品を本と共に展示した。
- ・岡山市立吉備中学校と岡山市立高松中学校の職場体験として、各 3 名の中学生を受け入れた。
- ・中国学園図書館えほん講座 No.28「図書館でクリスマス 2024」では約 40 人の地域の子どもたちと保護者の参加があった。
- ・図書館講座「カンヌ映画祭出品作品上映会『倉敷物語はちまん』」は新聞に開催する旨の記事が掲載されたこともあり、学外参加者が 24 名あった。

4. グローバル化の推進

本学のグローバル化は 2020 年度に設置した語学教育センターを中心に、留学制度をもつ国際教養学部と連携しながら進めている。今年度下記の 6 項目を計画として立案した。

- ・中国学園全体の外国語教育及び日本語の充実等を推進し、語学に対する意欲を高め、学習を支援する
- ・海外提携大学先を増やし、学生間及び教員間の交流を促進し、新しいグローバル教育を構築する。
- ・海外の大学等の教育機関との連携を進め、留学制度を充実させ、留学しやすい環境を整える。
- ・オンライン等により海外の大学と学生間、教員間交流を促進する。
- ・海外に進出している企業と連携して、海外インターンシップなどの研修制度を整える。
- ・外国人留学生受け入れのための体制づくりをする。

令和 6 年度の実績としては、

- ・夏季語学研修として 3 週間、カナダのバンクーバーアイランドの EF 校(提携語学学校)に、2 年生 1 名、4 年生 1 名の希望学生を送り出した。当該学生は大変満足して帰国した。また、本短期留学は科目として履修する形で実施するため、帰国後修了証を確認し、2 単位を認定した。
- ・夏季語学研修説明会(4 月)と合わせてセメスター留学(3～6 か月の長期留学)の説明会を実施したが、残念ながら長期の留学の希望者は今年度いなかった。
- ・海外の提携大学との提携延長及び再提携の交渉を進めている。昨年度期限満了の提携大学 3 校と MOU を再締結したが、その後、メールによる情報提供や担当者の来日時の本学への来学(カルガリー大学)など、継続的に交流が行われている。

5. ICT 化の推進

令和 6 年度の「ICT 化の推進」において、通信量を増加に対応する為に、前年度の 10Gbps 対応光ファイバ敷設に続いてサーバ室センタースイッチ対向の各棟通信機器を更新して、この間の高速伝送を実現した。音楽ホールと合唱教室にも Wi-Fi 環境を整備してデジタル化が進む教育環境へ適応する通信基盤を整えた。情報処理演習室の整備では、最新のプロ用のマルチメディアソフトウェアを利用できるよう 11 号館 2F の K205 演習室の PC を更新した。

情報教育センターでは、急速な情報化社会に対応できる学生の情報基礎教育を支援するため、以下の事業を推進した。

(1) オンライン教材収集システムの構築と活用推進

授業目的公衆送信補償金制度を活用し、教員が作成したオンライン教材を収集するシ

システムの構築を目指し、授業目的公衆送信補償金等管理協会への申請手続きを実施した。また、本学の UNIPA サーバ内に教材を構築する計画を進めたが、サーバ容量の制約という課題に直面した。このため、大学全体の教職員への周知と教材収集の推進には至らなかった。

(2) 遠隔教育環境の整備拡充と一般・高校生への開放検討

遠隔教育を推進するための環境整備として、必要な機器の整備は概ね完了した。一般・高校生への貸し出しについては、音楽スタジオやライブ配信設備としての活用を想定し、運用管理に関する規定の策定など、貸し出しの試行に向けた検討を進めている。特に高校生への無料貸し出しについては、地域連携の一環として重要な取り組みと考えている。また、YouTube 放送局の試行運用を実施し、技術的な課題や運用上のノウハウを蓄積することができた。

(3) 白鷺 e-ラーニングの全学実施に向けたカスタマイズ

令和5年度に一部導入した白鷺 e-ラーニングの全学的な実施を目指し、各学科の授業(採用試験対策を含む)で活用できるような問題の導入など、カスタマイズを検討した。しかしながら、他学科においては別の e-ラーニングシステムの導入が進むなど、全学的な展開は困難な状況となった。

(4) 情報教育を通じた論理的思考力・問題解決能力育成授業の試行

情報教育を通して学生の論理的思考力や問題解決能力を育成するため、ロボット(Pepper)を活用した授業の試行を実施した。Pepper は学生の目に触れやすい場所や学科の授業、オープンキャンパスなどで活用することができ、学生の興味関心を引く上で一定の効果があつた。

6. 地域貢献への取組みの推進

2021 年度に設置した地域支援センターを中心に、地域の活性化に寄与するため、地方自治体、地元産業界等との連携を図る全学の地域連携活動を支援する。

(1) 地方自治体、地元産業界との連携の推進

① 包括的な連携協定の締結

＊協定数 15 件(自治体 5 件、法人 10 件)

② 岡山・産学官連携推進会議

・幹事として、幹事会に出席(5/13)

(2) 大学コンソーシアム岡山の事業、吉備・陵南学区のイベント等への積極的参画

① 大学コンソーシアム岡山の事業への参画

ア 令和6年度「吉備創生カレッジ」への科目提供

「非営利法人について知ろう」(4/8)情報ビジネス学科教授 五百竹宏明
【8名】

「フレイル介護を防ごう」(9/26)人間栄養学科教授 井之川仁 【7名】

「俳句入門教室」(10/9)子ども学科准教授 太田憲孝 【3名】

『『老い』という錯覚2』総合生活学科教授 韓在都 【17名】

イ 令和6年度「日ようび子ども大学」(6/9:岡山県生涯学習センター)

子ども学科教員・学生が参画

② 吉備・陵南学区のイベント等への参画

ア 令和6年度「木堂ふるさとまつり」(7/27:吉備中学校運動場)

・ダンスサークルの学生がステージで演技

イ 「第20回吉備・陵南まちかど博物館」(11/3:庭瀬界限)

・本学にて、人間栄養学科教員・学生及び和太鼓サークルの教員・学生が参画

7. 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

優秀な教職員を安定的に確保し、その資質向上を図ることは学校法人の重要な課題で

ある。授業内容・方法の改善を目指した組織的な取り組みであるFD(ファカルティ・ディベロップメント)と職員の資質向上のための組織的な取り組みであるSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を積極的に進めるとともにIRセンターで教学関係のデータ分析と可視化を行い、情報の共有化を図るため、次のことを実施した。

- ・FD研修会については、第1回(8/5 大学・短期大学合同)をFD・SD合同研修として、学園全体で喫緊の課題となっている学園改革等の課題について、「中国学園の改革の課題～ガバナンス改革を中心に～」テーマに、学長が講師となり研修を実施した。

第2回(9/12)には、「高等学校でどのように学んできたか」をテーマに、

第3回(9/18)には、「学生の学修時間・学修行動を踏まえた教育活動の見直しー学生生活実態調査アンケート2023から」という内容で、各学部・学科でアンケート結果を基に与えられた項目について話し合い、発表がされた。このFD研修で協議したことが実際に教育の改善に生かされることが求められている。

また当日欠席した教員に対しては、研修の様子をビデオ撮影し、後日視聴する措置をとり、感想を求めることで出席とカウントした。出席率は100%である。

- ・公開研究授業の拡大と充実

新任教員の参加を必須とした。ほぼ全授業が公開されており大学・短期大学の枠を超えた授業研究が可能である。

また、公開授業期間の案内は、主な会議で告知するとともに、新教務シス(UNIPA)掲示板で周知はした。今年度前期の公開授業へは大学13名、短期大学9名の教員が参加した。

- ・学生による授業アンケートの改善・充実と集計結果の公表

昨年度から新教務システムによる授業評価アンケートが稼働し、学生がアンケート回答期間であればいつ、どこでも対応できる環境が整った。

また、期間終了と同時にシステム内において集計ができることで、担当教員へ結果送信が即日対応可能となった。その結果、教員が学生からのコメントに対し、フィードバックする方法として同一画面を使用し、入力することができるようになった。併せてホームページへの掲載についてもスムーズに行えた。

- ・シラバスの改善・充実

新教務システムでのシラバス入力が2年目となる。年度に応じた「授業概要(シラバス)作成の手引2024」を作成するとともに、具体的な学習内容の記載を促すために、資料の作成及びUNIPAでのシラバス入稿方法についても教員へ提示できるよう準備を行った。

また、本学教員のみに課していたループリックの記載を、非常勤講師にも対応を求めることで、充実したシラバスが完成した。個々の学生には、学修の獲得状況について、ループリックを活用して自ら評価することが可能である。その結果を教員がフィードバックすることで、学生の自立的な学修を促すことにも通じる。

- ・SD委員会による職員の研修計画等の策定

6月18日(火)に第1回委員会を開催し、今後の研修項目についての意見交換を行うとともに、令和6年度の第1回の研修について、日程、内容を決定した。

- ・SD研修会の充実と全教職員の参加

8月5日(月)に全教職員を対象とした研修会を「中国学園の改革の課題～ガバナンス改革を中心に～」のテーマで学長を講師として開催した。

また、9月11日(水)には、「職場のメンタルヘルスについて」のテーマで本学総合生活学科講師を講師として研修会を実施した。

当日参加できない教職員のためにビデオで受講できる措置を行った。

- ・IRセンターで教学関係のデータ分析と可視化

中国学園大学・中国短期大学の教学IRに関する実施状況を調査し、収集したデータ分析・可視化した。分析した情報は全学の各部局代表で構成されたIRセンター運営委員会を通して学内共有し、各学部学科、事務部局の教学IRの自己検証と教育改善に役立て

るとともに、幹部会、教授会を通して大学執行部へ学内 IR 情報の現状と分析結果を提供した。

令和 6 年度に取り組んだ調査業務内容は以下の通りである。

- ・中国学園ポートレート（令和 6 年度版）：中国学園教職員の基本情報（「学生教職員」「学部学生」「卒業後の進路」）に関する資料一覧取り纏めと学内公開（サイボウズ）。
- ・入学志願者、入学者、定員充足率に関する経年分析。
- ・科研費及び外部資金取得状況の調査分析と科研費獲得対策。
- ・資格試験取得状況の調査分析と GPA 分布の相関解析（初年次と卒年時累積 GPA 分布）。
- ・教員データベースの整備（自己点検・評価委員会と連携）。

8. 自己点検・評価及び認証評価の取組みの推進

本学は、短期大学が（財）短期大学基準協会の 3 巡目の評価を受け、令和 4 年度末に適格認定書を交付された。また、大学においては、令和 5 年度に（財）日本高等教育評価機構の 3 巡目の受審を受け、令和 6 年 3 月に適格認定書の交付を受け評価結果を W E B 等に公表した。令和 6 年度は、評価の際に指摘・指導があった事項の改善に取り組んだ。

9. 経営基盤の強化

（1）円滑な管理運営

①ガバナンスの確立

私立学校の経営体制の安定と財政基盤の充実には、ガバナンスの確立が必要である。そのため、2020 年度に設置した I R センターで各種情報の収集・分析を行うとともに、本学園の規範となるガバナンス・コードに基づくガバナンスの確立を図っている。

令和 6 年度は、私学法の改正に伴う寄附行為の変更及び関連規則・規程の改正が必要であるため、学内にガバナンス改革プロジェクトチームを編成して対応に当たった。寄附行為の改正については、9 月の理事会・評議員会で改正案が議決され、文部科学省へ変更認可申請を行い、1 月に認可された。また、寄附行為の改正に伴う諸規定の見直しを行った。

②リスク管理体制の構築

危機管理マニュアルに基づき危機管理と危機対策を推進するとともにコンプライアンスの強化を図っている。11 月 8 日（水）には岡山市消防局との協働により、中国学園キャンパスにおいて大規模特別消防避難訓練を実施した。

③ガバナンスの確立・リスク管理研修の実施・外部研修会への参加

- ・ F D ・研修会におけるガバナンス改革を中心としたテーマでの研修会を実施した。
- ・私立大学協会主催の各種研修会へ担当者が出席した。

（2）健全な財政運営

ア．激変する環境に対応し、将来に向けて安定した財務基盤を維持していくため、諸課題に具体的に対処し、方向性を明確にしたうえで、今後取り組むべき事業に経営資源を集中する。

中期計画上の施設設備拡充・整備事業計画に必要な資金を確保するため、中長期的収支差額の見通し、単年度収支差額の状況を精査し、早急に収支構造の改善を図る。教育研究活動のキャッシュフローを確保すると同時に各種財務関係比率の適正化を図る。経常収支の根幹である「学納金」と「人件費」のバランスに留意し、人員配置の見直しと共に業務の効率化を図り、中期計画に沿い、適正と判断される比率の確保を目指す。

人件費率 (人件費／経常収入)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
	69. 9%	71. 2%	70. 8%	78. 0%	82. 4%

・教育研究の充実のため、教育の質の向上、研究の活性化など、より特色のある大学づくりに向けて、教学の理念に沿い、学生の主体性を引き出し、地域社会に繋げる事業への支出とする。

教育研究経費比率 (教育研究経費／経常収入)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	38.3%	39.8%	39.8%	42.6%	45.7%

・管理経費については、先例にとらわれず、支出の内容について費用対効果、内容の妥当性を十分検討し、不急の支出を抑制すると共に今後の環境変化に柔軟に対応するため、組織の変革に資する支出とする。

管理経費率 (管理経費／経常収入)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	6.7%	6.8%	6.1%	6.1%	7.4%

イ. 施設設備及び各種システムの整備充実

本館等建築から経過年数の長い施設の調査を行い、改修計画を策定し、順次整備を行った。

また、質の高い教育研究の展開を可能にするために、施設設備の整備、各種システムの構築、更新・充実を引続き進めている。

令和6年度は、主として次の事業を計画し、順次整備した。

- ・11号館、12号館等の映像・音響設備の更新
- ・グラウンドの防球ネット設置。
- ・学生寮居室内 机・椅子の入れ替え
- ・7・8号館及び本館の冷温水器の修繕
- ・学生寮温水器入れ替え及びデスクトップPC入れ替えは、一部完了している。
- ・図書館壁面タイル剥離補修工事は、施工方法を検討し工事に取りかかった。

ウ. E C O対策への取り組み

本学のE C O対策への取り組みについては、従前から、建物のトップライト方式や冷暖房設備を吸収式冷暖房設備からG H P（ガスヒートポンプ）冷暖房設備への切替え等を実施しているところである。

今年度もE C O対策の周知徹底を図るとともに次の取り組みを順次実施している。

- ・照明器具をL E D照明に更新の着実な実施。

エ. 職員の給与

本法人の職員給与については、人件費の適正化に向け、財源となる本学の財政状況を見ながら、検討することとする。

(10) 情報公開の推進

私立学校法等により情報公開が義務付けられている以外の情報についてもインターネットを利用して積極的に公開する。特に最新の情報やトピックスの発信を積極的に行っている。

(2) 研究教育の概要

①教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	
	子ども学部	子ども学科	
	国際教養学部	国際教養学科	
	現代生活学研究科		人間栄養学専攻
	子ども学研究科		子ども学専攻
中国短期大学	総合生活学科		
	保育学科		
	情報ビジネス学科		

②教員組織及び教員数

(令和6年5月1日)

大学等	学部・研究科等	学 科	教員数
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	20人
	子ども学部	子ども学科	17人
	国際教養学部	国際教養学科	10人
	現代生活学研究科	(人間栄養学専攻)	(基礎学部を含む)
	子ども学研究科	(子ども学専攻)	(基礎学部を含む)
	情報処理センター		1人
中国短期大学	総合生活学科		9人
	保育学科		11人
	情報ビジネス学科		7人

③学生に関する情報

大学等	学部・研究科等	入学定員	収容定員
中国学園大学	現代生活学部 人間栄養学科	80 3年次編入4	328
	子ども学部 子ども学科	100 3年次編入5	410
	国際教養学部 国際教養学科	50 3年次編入5	210
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	5	10
	子ども学研究科 子ども学専攻	5	10
	小 計	240	968
中国短期大学	総合生活学科	85	170
	保育学科	120	240
	情報ビジネス学科	80	160
	小 計	285	570

合 計	5 2 5	1, 5 3 8
【大学・短大：入学に関する基本的な方針】 ・現代生活学部 人間栄養学科：中国学園大学学則第1条の2の第1号による ・子ども学部 子ども学科：中国学園大学学則第1条の2の第2号による ・国際教養学部 国際教養学科：中国学園大学学則第1条の2の第3号による ・現代生活学研究科 人間栄養学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第1号による ・子ども学研究科 子ども学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第2号による ・総合生活学科：中国短期大学学則第1条の2の第1号による ・保育学科：中国短期大学学則第1条の2の第2号による ・情報ビジネス学科：中国短期大学学則第1条の2の第4号による		

④学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科等	所在地	主な交通手段
中国学園大学	庭瀬 キャンパス	現代生活学部 人間栄養学科 子ども学部 子ども学科 国際教養学部 国際教養学科 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 子ども学研究科 子ども学専攻	岡山市北区庭瀬 83番地	山陽本線庭瀬駅 下車 徒歩15分
中国短期大学		総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科		

⑤学生納付金に関する情報

学部・学科		授業料		入学料		その他の費用徴収	
		金 額	納入時期	金 額	納入時期	金 額	納入時期
中国 学 園 大 学	現代生活学部 人間栄養学科	50万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	50万円	4月20日 10月20日
	子ども学部 子ども学科	50万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日 10月20日
	国際教養学部 国際教養学科	59万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	40万円	4月20日 10月20日
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	30万円	4月20日 10月20日
	子ども学研究科 子ども学専攻	40万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	20万円	4月20日 10月20日
中国 短 期 大 学	総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科	41万円	4月20日 10月20日	25万円	入学手続時	38万円	4月20日 10月20日

⑥学生支援と奨学金に関する情報

〈学生支援〉

区 分	組 織 名	機 能
就職支援	就職支援センター	Face to Face の支援（一人ひとりを大切に した面談） 迅速な情報発信（求人・就職情報を一人ひと りに配信） 豊富な視聴覚教材（就職活動の基本を DVD 教 材で学習） 企業との信頼関係（ガイダンス、インターン シップ、実習等による） 卒業後のフォロー（卒業後の再就職の相談）
生活支援 （学生寮、アルバイト 等）	学生課	各種情報を掲示することで学生に随時紹介 している
保健・衛生	保健室	専門職員を配置し、健康に関する相談、けが や病気の応急措置等に対応している 定期健康診断の実施及び健康診断証明書の 発行
メンタルヘルス	学生相談室	専門職員がインテーカーとして対人関係・学 業・進路・心の健康等の相談に応じた

〈奨学金〉

種 類	要 件	申 込 方 法
日本学生支援機構 給付奨学金 貸与奨学金 （第一種） （第二種）	〔給付〕 ・住民税非課税世帯及びそれに準 ずる世帯で学ぶ意欲がある学生 ・多子世帯に属している学生 〔貸与〕 経済的理由により修学が困難で、 優れた学生であると認められる者	本人の願い出により、学生課を 経由して申請
地方公共団体による奨 学金 ・岡山市奨学生 ・倉敷市奨学生	それぞれの市内居住者またはその 子ども 人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由により修学困難 他の奨学金を受けていないこと 等	本人が直接該当市教育委員会 事務局へ申請 担任による推薦調書が必要
ノートルダム育英財団	岡山県内の大学・短大に在学する 学生（1年・院博士課程は除く） 人物、学業ともに優れ、将来社会貢 献を期待できる者	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦 指導教官の推薦書が必要
あしなが育英会	病気や災害、自死（自殺）などで親 を亡くした学生や、障がいなどで 親が十分に働けない家庭の学生	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦 学長または学部長、学科長の推 薦が必要
交通遺児育英会	保護者等が交通事故で死亡した り、重い後遺障害のために働けず、	本人の願い出により、学生課を 経由して推薦

	経済的に修学困難な学生	学長または学部長, 学科長の推薦が必要
公益財団法人 小松奨学財団	人物・学業ともに優秀で経済的援助が必要と認められる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長, 学科長の推薦が必要

〈特待生・優待生等〉

号	種類	減免額等	対象	対象学生	対象人数
1	学業成績 特待生制度 (新入生)	A: 入学料全額及び 授業料(1年間) の全額 B: 入学料全額及び 授業料(1年間) の半額	一般選抜Ⅰ期入 学試験において 特に成績優秀で あった者	大学, 短大1年 次生	若干名
2	学業成績 特待生制度 (在学生)	100,000円の給付	学業, 人物とも に優れた者	大学2, 3, 4年 次生 短大2年次生	各学科・各学年毎 に1名 加算については、 「加算についての 取扱要項」による
3	修学支援制度	① 授業料(1年 間)の半額免除 ② 100,000円以内 の給付	①経済的に修学 が困難になっ た者で成績良 好な者 ②収入激減等に より生活困窮 者となった者	全学年	①大学, 短大で15 名以内 ②別途定める
4	卒業生の子等の入学優遇制度				
	(1) 卒業生の子の入学 優遇制度	入学料全額免除	本学卒業生を保 護者等とする新 入生	大学、短大1年 次生	該当者全員
	(2) 卒業生を祖父母と する入学優遇制度	入学料の一部免除 150,000円免除	本学卒業生を祖 父母とする新入 生	大学、短大1年 次生	該当者全員
	(3) 卒業生を兄・姉と	入学料の一部免除	本学卒業生を兄	大学、短大1年	該当者全員

	する入学優遇制度	100,000円免除	姉とする新入生	次生	
5	兄弟姉妹在学生支援制度	在学期間の弟妹の授業料1/3相当額	本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟又は妹	全学年	該当者全員
6	沖縄県等遠隔地学生支援制度	入学料全額免除及び寮費、管理費の半額免除	沖縄県からの入学者	全学年	該当者全員
7	学校推薦型選抜（指定校一連携協定校枠） 入学生支援制度	入学料全学免除	学校推薦型選抜（指定校一連携協定校枠）のうち学長が指定する学校からの入学者	大学、短大 1年次生 3年次編入生	該当者全員
8	学校推薦型選抜（指定校） 入学生支援制度	入学料の一部免除 50,000円免除	学校推薦型選抜（指定校）入学者	大学、短大 1年次生	該当者全員
9	学校推薦型選抜（指定校） 入学生奨励金制度	50,000円の給付	学校推薦型選抜（指定校）入学者のうち優秀な者	大学、短大 1年次生	各学部・学科の学校推薦型選抜（指定校）入学者の1割程度
10	資格等取得者優遇制度	別表1による	別表1による	大学、短大 1年次生（入学時点）	該当者全員

(3) こども園の概要

① 名称等

名 称	形 態	所 在 地	主な交通手段
中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園	幼保連携型認定こども園	岡山市北区中撫川351番地	JR 山陽本線庭瀬駅（約2.3Km） 岡電・両備・下電バス 撫川停留所（約1Km）

②園児の状況

1) 定員：200人

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
15人	15人	15人	25人	35人	35人	12人	24人	24人

2) 在籍者数：165人

(令和6年5月1日現在)

1号認定			2号認定			3号認定		
3歳児	4歳児	5歳児	3歳児	4歳児	5歳児	0歳児	1歳児	2歳児
7人	8人	9人	25人	29人	34人	6人	23人	24人

③教育・保育時間

1号認定	2・3号認定
月曜日～金曜日 休業日：土曜日・日曜日・学年始休業日・夏季休業日・冬季休業日・学年末休業日・国民の祝日に関する法律に規定する休日	月曜日～土曜日 休園日：日曜日・年末年始・国民の祝日に関する法律に規定する休日
【教育時間】 9:00～14:00	【教育・保育時間】 〈標準時間認定〉 7:00～18:00 〈短時間認定〉 8:30～16:30
○一時預かり	○延長保育 ○一時預かり

(4) 財務の概要

①資金収支の推移（法人全体）

資金収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、資金の顛末を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

資金収支計算書の状況

（単位：千円）

収入の部					
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	1,135,319	1,064,486	1,006,582	933,504	841,347
手数料収入	13,942	13,300	12,264	11,396	7,589
寄付金収入	5,571	12,890	21,860	6,000	6,070
補助金収入	392,463	365,506	383,248	366,168	352,599
国庫補助金収入	189,569	170,835	179,435	166,253	155,756
地方公共団体補助金収入	202,893	194,672	203,814	199,916	196,843
資産売却収入	949,489	881,971	700,005	300,000	14
付随事業・収益事業収入	13,433	10,822	8,525	5,701	797
受取利息・配当金収入	21,683	32,015	32,574	4,411	766
雑収入	62,316	32,014	61,807	92,822	63,923
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	232,143	231,250	212,805	189,472	162,944
その他の収入	403,570	390,691	385,390	387,057	435,360
資金収入調整勘定	△ 370,653	△ 261,511	△ 293,287	△ 309,782	△ 255,976
前年度繰越支払資金	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061
収入の部合計	3,843,290	3,605,984	3,599,307	3,510,055	3,136,494
支出の部					
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	1,136,952	1,089,390	1,088,337	1,115,979	1,044,446
教育研究経費支出	345,454	352,243	363,538	350,858	324,980
管理経費支出	98,531	93,137	82,186	77,652	84,073
借入金等利息支出	3,214	2,630	2,046	1,952	1,262
借入金等返済支出	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
施設関係支出	3,949	7,796	605	5,272	7,648
設備関係支出	75,770	41,775	65,797	124,683	61,954
資産運用支出	952,000	600,000	100,000	0	0
その他の支出	412,872	359,165	398,748	376,223	392,935
資金支出調整勘定	△ 48,762	△ 38,446	△ 56,017	△ 94,385	△ 45,719
翌年度繰越支払資金	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061	1,234,154
支出の部合計	3,843,290	3,605,984	3,599,307	3,510,055	3,136,494

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

②活動ごとの資金収支の推移（法人全体）

活動区分資金収支計算書は、学校法人の活動ごとの資金の流れを明らかにすることを目的として作成される計算書です。

具体的には、資金収支計算書の決算額を①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に区分したものです。

法人名：学校法人 中国学園

活動区分資金収支計算書の状況

(単位:千円)

教育活動による資金収支	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	収入	1,135,319	1,064,486	1,006,582	933,504	841,347
	学生生徒等納付金収入					
	手数料収入	13,942	13,300	12,264	11,396	7,589
	経常費等補助金収入	375,681	365,433	383,248	366,168	352,599
	教育活動資金収入計	1,601,261	1,483,945	1,489,286	1,410,591	1,267,324
支出	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	人件費支出	1,136,952	1,089,390	1,088,337	1,115,979	1,044,446
	教育研究経費支出	345,454	352,243	363,538	350,858	324,980
	調整勘定等	△ 94,695	34,256	△ 43,068	△ 60,934	349
施設整備等活動による資金収支	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	収入	16,782	73	0	0	0
	施設設備補助金収入					
	施設整備等活動資金収入計	21,804	5,073	5,005	5,000	5,015
	支出	3,949	7,796	605	5,272	7,648
	施設関係支出					
	設備関係支出	75,770	41,775	65,797	124,683	61,954
	施設整備等活動資金支出計	79,719	49,571	66,402	129,955	69,602
	差引	△ 57,915	△ 44,498	△ 61,397	△ 124,955	△ 64,587
	調整勘定等	△ 8,876	3,737	10,616	50,247	△ 3,853
その他の活動による資金収支	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	収入	0	0	0	0	0
	借入金等収入					
	小計	1,307,514	1,194,854	1,057,869	626,003	339,667
	受取利息・配当金収入	21,683	32,015	32,574	4,411	766
	その他の活動資金収入計	1,329,197	1,226,870	1,090,443	630,413	340,434
	支出	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
	借入金等返済支出					
	小計	1,336,286	941,924	494,001	361,168	371,811
	借入金等利息支出	3,214	2,630	2,046	1,952	1,262
調整勘定等	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 151,465	234,986	455,772	△ 2,247	△ 286,907
	前年度繰越支払資金	984,014	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061
	翌年度繰越支払資金	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061	1,234,154

* 主要科目のみ表示している場合、各計が一致していない場合があります。また科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

③事業活動収支の推移（法人全体）

事業活動収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の事業活動収支の内容を明確にし、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を表すものです。

法人名:学校法人 中国学園

事業活動収支計算書の状況

(単位:千円)

	科 目	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,135,319	1,064,486	1,006,582	933,504	841,347
	手数料	13,942	13,300	12,264	11,396	7,589
	寄付金	3,196	7,890	16,860	1,000	1,070
	経常費等補助金	375,681	365,433	383,248	366,168	352,599
	付随事業収入	13,433	10,822	8,525	5,701	797
	雑収入	62,316	32,014	61,807	92,822	63,923
	教育活動収入計	1,603,886	1,493,945	1,489,286	1,410,591	1,267,324
	事業活動支出の部					
	人件費	1,136,198	1,086,368	1,077,922	1,103,966	1,044,782
	教育研究経費	622,016	607,128	605,888	602,308	579,284
	管理経費	109,632	103,721	92,364	86,893	94,025
	徴収不能額等	1,275	2,164	983	1,285	755
	教育活動支出計	1,869,121	1,799,381	1,777,156	1,794,452	1,718,846
	教育活動収支差額	△ 265,235	△ 305,436	△ 287,870	△ 383,861	△ 451,522
教育活動外収支	科 目	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度
	受取利息・配当金	21,683	32,015	32,574	4,411	766
	教育活動外収入計	21,683	32,015	32,574	4,411	766
	科 目	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度
	借入金等利息	3,214	2,630	2,046	1,952	1,262
	教育活動外支出計	3,214	2,630	2,046	1,952	1,262
	教育活動外収支差額	18,469	29,385	30,528	2,459	△ 496
経 常 収 支 差 額		△ 246,767	△ 276,051	△ 257,342	△ 381,402	△ 452,018
特別収支	科 目	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度
	資産売却差額	240	0	0	0	0
	その他の特別収入	23,419	6,158	6,023	6,139	5,255
	特別収入計	23,659	6,158	6,023	6,139	5,255
	科 目	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度
	資産処分差額	11,216	20,305	7,796	657	2,703
	その他の特別支出	29,565	0	0	638	0
	特別支出計	40,781	20,305	7,796	1,295	2,703
	特別収支差額	△ 17,122	△ 14,147	△ 1,773	4,843	2,551
基本金組入前当年度収支差額		△ 263,889	△ 290,197	△ 259,115	△ 376,559	△ 449,466
基本金組入額合計		△ 80,770	△ 102,009	△ 73,577	△ 97,997	△ 101,215
当年度収支差額		△ 344,659	△ 392,207	△ 332,693	△ 474,556	△ 550,681
前年度繰越収支差額		△ 3,085,418	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976	△ 4,629,533
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976	△ 4,629,533	5,180,214
(参考)						
事業活動収入計		1,649,228	1,532,118	1,527,882	1,421,140	1,273,345
事業活動支出計		1,913,117	1,822,315	1,786,998	1,797,699	1,722,811

*各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

④貸借対照表（資産の状況）の推移（法人全体）

貸借対照表は期末（会計年度末：３月３１日）における資産・負債・純資産（基本金および繰越収支差額）を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

貸 借 対 照 表 の 状 況

（単位：千円）

資 産 の 部					
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固 定 資 産	7,365,487	7,189,007	6,495,613	6,068,841	5,868,428
有形固定資産	6,601,428	6,385,116	6,192,262	6,030,200	5,840,938
土 地	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646	1,314,646
建 物	4,454,186	4,278,211	4,102,350	3,927,282	3,752,673
構 築 物	225,203	205,511	183,395	167,558	153,818
教育研究用機器備品	204,439	182,639	185,590	208,904	206,568
その他の機器備品	9,779	9,526	15,988	18,061	17,962
図 書	393,176	394,585	390,293	393,750	395,270
車 両	0	0	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	764,058	803,891	303,352	38,641	27,490
電話加入権	1,102	1,102	1,102	1,102	1,102
無形固定資産	0	0	0	31,219	23,415
有 価 証 券	752,150	802,150	302,150	2,150	2,150
施設設備拡充引当特定資産	0	0	0	0	0
長期未収入金	0	0	0	0	0
長期前払金	10,807	639	100	4,169	824
流 動 資 産	1,372,172	1,204,590	1,585,187	1,621,520	1,305,015
現 金 預 金	832,550	1,067,535	1,523,307	1,521,061	1,234,154
未 収 入 金	78,124	27,521	61,054	95,693	65,750
有 価 証 券	450,000	100,000	0	0	0
立 替 金	0	0	0	0	0
前 払 金	11,498	9,534	825	4,767	5,111
資産の部合計	8,737,658	8,393,597	8,080,800	7,690,361	7,173,443

（単位：千円）

負 債 の 部					
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固 定 負 債	550,762	508,758	477,137	477,856	438,692
長期借入金	123,040	92,280	61,520	30,760	0
退職給与引当金	414,980	411,958	401,544	389,530	389,866
長期未払金	12,742	4,520	14,074	57,565	48,826
流 動 負 債	348,198	336,339	314,278	299,679	271,391
短期借入金	30,760	30,760	30,760	30,760	30,760
未 払 金	47,857	35,171	36,928	50,068	49,691
前 受 金	232,143	231,250	212,805	189,472	162,945
預 り 金	37,438	39,158	33,785	29,380	27,996
負債の部合計	898,961	845,097	791,416	777,535	710,083
純 資 産 の 部					
科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基 本 金	11,268,774	11,370,784	11,444,361	11,542,359	11,644,574
第1号基本金	11,164,774	11,243,784	11,317,361	11,415,359	11,516,574
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	104,000	127,000	127,000	127,000	127,000
繰越収支差額	△ 3,430,077	△ 3,822,283	△ 4,154,976	△ 4,629,533	△ 5,180,214
純資産の部合計	7,838,698	7,548,500	7,289,385	6,912,826	6,463,359
負債及び純資産の部合計	8,737,658	8,393,597	8,080,800	7,690,361	7,173,443

※各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

⑤主な財務比率の推移(法人全体)

「事業活動収支計算書」関係比率

	比 率	計算式	比率の意味	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する人件費の占める割合を示しています。この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	69.9%	71.2%	70.8%	78.0%	82.4%
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	学生生徒等納付金に対する人件費の占める割合を示しています。	100.1%	102.1%	107.1%	118.3%	124.2%
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する教育研究経費の占める割合を示しています。この比率は収支均衡を失わない範囲内で高くなることが望ましいとされています。	39.3%	39.6%	39.8%	42.6%	45.7%
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する管理経費の占める割合を示しています。ある程度の支出は止むを得ないものの、比率は低い方が望ましいとされています。	6.7%	6.8%	6.1%	6.1%	7.4%
5	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額の教育活動収入に対する割合で、本業である教育活動の収支バランスを示す比率です。	△16.5%	△20.4%	△19.3%	△27.2%	△35.6%

* 「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

「活動区分資金収支計算書」関係比率

	比 率	計算式	比率の意味	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。	△4.6%	△0.4%	△5.9%	△13.8%	△14.7%

* 教育活動資金収入計＝学生生徒等納付金収入＋手数料収入＋特別寄付金収入＋一般寄付金収入＋経常費等補助金収入＋付随事業収入＋雑収入

教育活動資金支出計＝人件費支出＋教育研究経費支出＋管理経費支出

教育活動資金収支差額＝教育活動資金収入計－教育活動資金支出計＋教育活動調整勘定等

「貸借対照表」関係比率

	比 率	計算式	比率の意味	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
13	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	一年以内に支出しなければならない流動負債に対して、現金預金など現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期の支払能力を判断する重要な指標です。	394.1%	358.1%	504.4%	541.1%	480.9%
20	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	施設設備の更新や教職員の退職金基金等、将来の確定的債務等について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを表す比率です。この比率は高い方が望ましいとされています。	39.5%	38.4%	32.4%	25.3%	20.2%

* 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋2号基金＋3号基金